

株式会社 雄 (栃木県真岡市)

- 令和4年2月法人設立
- 真岡市物部地区を主に水稻、小麦、大豆、そば、いちごを栽培
- 国内最大規模である5m幅の大型播種機を用いた作業時間の効率化
- 耕耘・播種から刈取、乾燥・調製までの機械化一貫体系の導入により生産コストを低減

生産概要

- 【作付面積】水稻：108ha、小麦：30ha、そば22ha、大豆：30ha、いちご：0.4ha (R7年)
- 2年3作の輪作 (稲→麦→大豆)
- コロナ禍の納豆業者の在庫過剰解消を受け、3年ぶりに「納豆小粒」の契約栽培を再開
- 営農管理システム (アグリノート) の活用による圃場管理、スマート農機を活用した生産の高度化・省力化
- 滞水防止や根域の健全化に資する深耕や有機資材施用等、気候変動に対応した栽培管理を実施



〈自動操舵付き大型播種機による播種〉

取組のポイント

<営農技術の導入による単収の向上、作業の効率化>

- 水田の深耕による排水対策の強化
- 効率的播種技術 (狭畦密植栽培) の導入
- 化学肥料の低減 (稲わら、たい肥活用)



〈海外製大型汎用コンバインによる収穫〉



〈セクションコントロールによる施肥〉

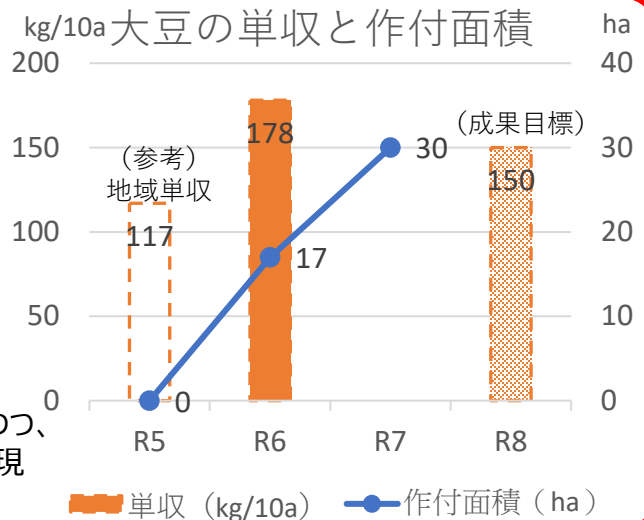
<積極的なスマート農業の活用>

- 団地化による作業効率の向上
- 畦畔除去による区画拡大の推進
- 自社でVRS方式GNSS受信機を導入し、GPSレーザーレベラーによる圃場の均平やGPS連動セクションコントロールによる肥料・農薬の重複散布を防止し、生育ムラや倒伏防止、資材コストの低減を実現

取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

- 排水対策の推進と狭畦密植栽培の導入により効率的な栽培が可能となり、R6年からR7年にかけて大豆の作付面積が増加。R6年が新規の作付けとなったが、単収は県平均を上回った。
- 地域の話し合いをもとに団地化を進め、成果目標として定めた単収及び団地化率をともに達成



<安定した農業所得の確保>

- 団地化や畦畔除去による大区画化を積極的に進めつつ、スマート農機の活用を図ることで作業効率の向上を実現